

# 地区協わかば

## 人をつなぐ・地域をつなぐ ～地域の石仏を訪ねて② 庚申信仰について～

この地域でよく見られる「庚申塔」に彫られている像は主に、青面金剛（しょうめんこんごう）という神様です。腕は6本あり、邪鬼を踏みつけています。その下の三猿は、若葉小学校の6年生なら日光移動教室でも見たことでしょうか。像の左側には江戸時代の元号が記されており、当時熱心に信仰されていたことがうかがえます。方向により「江戸」「井のかしら」「ふだ」などと書かれてある庚申塔もあり、道標の役割も担いました。

庚申信仰は中国の道教が起源とされ、奈良時代末期に日本に伝わり、長い年月を経て仏教や神道の信仰と合わさって、庶民に広く伝わるようになったものです。60日に一度の庚申（かのえさる）の日の夜、寝ている時に体内にいる「三尸（さんし）の虫」が抜け出して天帝にその人の悪事を報告し、寿命が短くなるとされていました。そこで、その日の夜は皆で集まって寝ずに過ごしたのです。そして天帝の使者とされる青面金剛を祀る庚申塔が建てられました。江戸時代、庚申信仰を広めたのは仏教の天台宗だったそうで、なるほど調布には深大寺があるし、この地域には明照院もあるな、と頷ける話です。

実際にこの「不眠の行」を体験したことのある新井七吾さん（83歳・入間町1丁目）と、清水正孝さん（81歳・入間町3丁目）にお話をうかがいました。

当時、地域ごとに20軒ほどの「講」を組織していました。各家持ち回りであらかじめ庚申の夜に集まる「宿」を決め、1軒あたり5合の米や、料理の材料費となるお金を集めます。当日はあたりが薄暗くなってから宿に集まり、24時過ぎもしくは21～22時ごろまで、ご飯を食べながらいろいろな話をして過ごしたそうです。しかし、この習わしは昭和30年代、つまり70年くらい前に終わりを迎えます。次の日も朝から通勤するサラリーマン家庭の増加、20人もの大人数を収容できる大広間のない住宅事情、準備の人手が到底足りない核家族化…といった、社会の変化が影響していると思われます。

インタビューで特に興味深かったのが、庚申の夜に集まるその目的が、自身の健康や長生きのためという本来の庚申信仰のものとは違い、講のなかでの親睦や団結、つまり地域と密接に関わるためだった、ということです。そして、参加するのは各家の主もしくは年頃の男性に限定されていて、女性は各自の家で過ごしました。その理由は「庚申の日に子どもを作ると良くない」と信じられていたからなのだそうです。また、弔事があった家は参加することを許されませんでした。

宿に当たった家は準備も片付けも大変だったと推察されますが、教義や実践方法に難解なところはなく、不安なく穏やかに生きたいと願う近世の庶民にとっても受け入れやすかったのではないのでしょうか。そして娯楽の少ない農村において、お腹いっぱい白米が食べられる、どこか楽しいイベント的要素もあったのではないかと思います。

今でもこの地域の庚申塔には熱心にお参りする人がいる一方で、維持管理はどこも苦勞されているようです。清水さんと写る庚申塔も成城8丁目の交差点から移設されました。市の郷土博物館の敷地内には、行き場を失って引き取られた庚申塔がひっそりと佇んでいます。その青面金剛は、ちょっと悲しげなお姿をされているように感じました。

時代は移り、庚申信仰は遠い過去の記憶となりつつありますが、若葉学校地区の庚申塔は今の場所で、末永く地域の安全を見守り続けてくれるよう、願ってやみません。

（広報・地域交流推進委員 小津伸一郎）

〈参考文献〉調布市史中巻 民俗編、「調布市の石造遺物（1）路傍の石仏」調布市教育委員会、子どものための調布市の歴史第二版 調布市立図書館



※庚申塔は多様であり、これらがすべての塔に彫られているわけではありません。



庚申塔と清水さん。お賽銭は社協に寄付しているという



新井さん



新井家が礼拝していた若葉町3丁目、大坂の上の庚申塔。ほかより状態が良い



## 楽しかったね。若葉縁日

暑い熱い夏！7月26日（土）、27日（日）の午後4時から若葉小学校の校庭、体育館にて、地区協を中心とした13団体の協力により、若葉縁日を開催しました。

飲食系模擬店（19種）、遊び・ゲーム系（13種）と昨年より多くの出店に、校庭、体育館に大勢の参加者が集い、飲食系では早くから売り切れる店があり、ゲーム系では終了時間が近づいても行列が続き、若葉町自治会の神輿も校庭狭しと練り歩き、暑さを吹き飛ばす盛り上がり2日間でした。参加者の楽しそうな顔、若葉縁日が夏の地域のイベントとして定着してきたことがうかがえました。

なお、地区協では、スポーツ飲料等を販売し、収益を社会福祉協議会に寄付しました。

熱中症、食中毒、事故、事件等、参加者の安全を配慮し、十分な対策、注意をはかり、両日ともに万全を期して開催し、大盛況で無事に終了しました。準備や運営に協力していただいた多くの団体や関係者、参加者の皆様に心から御礼申し上げます。

（若葉縁日実行委員長 笠木勝司）



## 若葉学校地区協議会の活動

広報誌が発行されました。年に1回の発行は予算の関係です。1年間の活動を掲載しておりますが、予算が増えれば年に2回ほど発行し、多くの記事を掲載したいと考えております。

本誌は当地区協の活動を地域の皆様に広報する唯一の手段ですが、「地区協議会」という名前も皆様がわかりづらいと思われる一因ではないでしょうか。

地域の組織としての自治会は、ある範囲の地域住民が協力して、防犯や防災活動、お祭りなど、会費を出し合って（市からの補助もありますが）地域の絆を強めていく組織です。

地区協は、小学校の学区の地域を対象にして活動するボランティア団体です。会費はありませんが、市から少額の活動費が出ております。自治会と同じような活動も行っておりますが、各自治会を包括した広域を対象としております。活動しているメンバーは、地域を元気づけたり、犯罪や災害から地域住民を守りたいと思っている人たちや、地域のために活動したいと思っている方々です。最近、共働き世帯の増加、雇用期間の高年齢化などにより、自治会と同じように地区協も人材不足と高齢化が進んでおります。このような状況が続けば地域の崩壊が進んで、住民の安全安心は守れなくなるのではないかと考えております。いざという時には役所の力だけでは、どうしようもありません。

地域のためにも、自分のためにも、お忙しいと思いますが、少しでも地域に目を向け、地域活動に参加をしていただき、お互いの絆を強めていければ、地域力の向上に繋がり、安全で安心な地域ができるのではないかと考えております。地域の皆様、どうか若葉学校地区協議会をよろしく願います。

（会長 藤丸卓男）





## 第12回 若葉の杜の音楽会



11月1日（土）、若葉小学校体育館において、「若葉の杜の音楽会」を開催しました。

12回目の今回、ご出演くださったのは、四中吹奏楽部、神代高校吹奏楽部、バレエタイム、四中ダンス部、四中PTA合唱同好会CLEAR VOICEの皆様方と、吉鷹梨佐さん、笈沼甲子さんでした。

コロナ禍以降、年ごとにパワーアップし続ける音の広がり、来場者とのふれあいを楽しむ指揮者が導き出す温かみのある余韻、日頃の練習の積み重ねからにじみ出る美しい所作、思いっきりの元気で夢中になっている姿、伸びやかな響き、繊細で確かな音色を紡ぎ出すヴァイオリンとピアノのデュオ、さらにはデュオとバレエタイムとのコラボ企画など、お集まりくださった大勢の皆様と楽しく共有することができました。

今回、年間の活動数や学校の行事予定の都合により、参加できない団体もありました。最近の子どもたちは、学業や部活など超多忙に過ごしています。今後も、子どもたちや各団体の状況に応じて、地域の小中学校や高校、関係者の皆様と連携を図り、企画していく所存です。

会場の運営や準備にあたって、お忙しい中、細やかにお気配りくださいました若葉小副校長山田先生、当日ご来場いただいた若葉小校長内藤先生、四中校長佐藤先生に、深く御礼申し上げます。

当日会場まで足をお運びくださった地域の皆様方、そして毎回快くご協力くださる関係者の方々から心より感謝申し上げます。

(広報・地域交流推進委員長 山崎治子)



## 目配りで犯罪抑止強化を

かねてより、防犯パトロールが犯罪抑止に効果大である、と力説してまいりました。これが、昨年の夏に実証されることとなりました。

猛暑日が増加する異常気象を考慮し、パトロールの予定を第一、第三週の火曜日とし、中止の場合は翌週へ順延する計画でしたが、猛暑日が連続し、ほとんど実施できませんでした。

その結果、7月には、高学年の児童が痴漢に遭遇。7～8月には、月極駐車場に3～4名の不審な人物が出現（2件）したとの報告がありました。屋根修理や水道チェックの違法な勧誘など、詐欺や犯罪につながる事案が増加したようです。

これらの事案は、人の目を嫌う犯罪者の特性を示すものであり、防犯パトロールの継続実施が不可欠であることを実証するものです。

その後、パトロール参加者各位の尽力によりパトロールが順調に実施され、抑止力が回復し、目立った事件の報告はない状況にあります。みなさまのご参加をお待ちしております。

(防犯推進委員長 元部欽司)



## 開校60周年を迎えて

本校は、昭和40年4月に開校し、以来60年の長きにわたり、緑豊かな環境と温かな地域のご支援のもと歩みを重ねてきました。これまでに、12,352名の卒業生を社会へ送り出し、今も各分野で活躍する姿は、四中の誇りであり、地域の宝でもあります。

節目の年となった本年、児童・生徒数の増加や校舎の老朽化により、施設の全面改築が始まりました。若葉小学校及び市立図書館若葉分館との一体型施設となり、地域コミュニティの拠点となる施設へと生まれ変わります。



60年という歴史は、先人たちのたゆまぬ努力と地域の温かな支えによって築かれてきたものです。私たちは、歴史ある四中の伝統を次代へと引き継ぎ、これからも地域とともに歩む学校づくりに取り組んでまいります。

(調布市立第四中学校校長 佐藤政彦)

校舎改築で伐採された中庭の木々を使い、校章のモニュメントを作成しました。

## 防災ワークショップを開催しました

入間地域福祉センターにて、新防災委員が初めての行事として、1月18日に「防災ワークショップ」を開催しました。奇しくも1月18日は、明暦3年（1657年）に「明暦の大火」が起きた日…「明暦の大火」は、江戸時代3大火で最大規模、江戸城の天守閣と江戸全体の60%が2日間で消失、死者は約10万人といわれました。

今後起こり得る東南海/首都直下地震では、外部からの物資補給が7日から1ヵ月程度途絶えるといわれており、国難級の大災害には、平時から考えておかなければ、とても地域は守れないと思います。

その手始めとして、災害時この地域では、市の防災課・学校・自治会などの各機関がどのような体制をとって、どのような動きをするのか？今回なんと、初めて時間経過と共に横並びに書き出し、個々ではわからない防災活動を同時に見られるよう、約20人の参加者の方々と情報共有することができました。

今回の「防災ワークショップ」の報告書（抜粋版、右記QRコードにて公開中）をご覧ください、今後の新たな地域防災の取り組みについて、皆さんにご協力いただけるよう、よろしくお願い申し上げます。



(防災推進委員長 宮田正幸)